

V 教育課題	第13分科会 研究課題	キャリア教育 勤労観・職業観を育むキャリア教育の推進と 校長の在り方
---------------	------------------------------	---

分科会の趣旨

現在、我が国は、少子高齢化が進む中、消費停滞や雇用不安など経済状況を中心に低成長の時代を迎えた。産業構造の枠組みの変換や歴史・伝統・文化の再評価など、持続可能な社会構築への要請が高まっている。特に、雇用の多様化・流動化が進む中、子どもたちの進路をめぐる環境は、大きく変化している。また、教育を取り巻く環境も変化してきており、若者をめぐる様々な課題が浮かび上がっている。さらには、若者の勤労観・職業観の未成熟や、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質・能力の欠如が各方面から指摘されている。このような中で、子どもたちが将来出会うであろう様々な課題に、柔軟かつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるよう、「生きる力」を育むことが強く求められている。

学校から社会への移行をめぐる課題としては、新規卒業者に対する求人状況の変動や、求職者と求人者の希望の不適合など「就職・就業をめぐる環境の激変」、あるいは社会人としての意識の希薄さや勤労観・職業観の未熟さなど「若者自身の資質などをめぐる課題」があげられる。また、子どもたちの生活・意識の変容に関して、社会的自立の遅れ、労働への関心・意欲の低下など「子どもたちの成長・発達上の課題」、モラトリアム傾向や目的意識の希薄な進学・就職など「高学歴社会におけるモラトリアム傾向」があげられる。

したがって、本分科会では、自立した社会形成者育成の観点から、学校・社会を関連付けた教育、社会人としての基礎的な資質・能力、発達に応じた指導の継続、家庭・地域と連携した教育など、キャリア教育を推進させるための具体的方策を明らかにする。

リーダーシップの視点

(1) 自尊感情を高め、自己や他者への積極的関心を形成・発展させる教育課程の編成

社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力は「基礎的・汎用的能力」である。「基礎的・汎用的能力」は、他者と協力・協働して社会に参画し今後の社会を積極的に形成する「人間関係形成・社会形成能力」、自分自身の肯定的な理解に基づき主体的に行動し、自らの思考や感情を律しながら進んで学ぼうとする「自己理解・自己管理能力」、課題を発見・分析し、計画を立てて処理・解決する「課題対応能力」、働くことの意義を理解し、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく「キャリアプランニング能力」の4つの能力に整理される。

キャリア教育を通じて、働くことや夢を持つことの大切さを理解し、自尊感情を高め、自己及び他者への積極的な関心を形成していけるよう、各教科・領域等を横断的・総合的に指導していく体制の整備も含め、教育課程の編成における校長の果たす役割と指導性を明らかにする。

(2) 身の回りの仕事や環境に関心をもち、目標に向かって努力する態度の育成

小学校におけるキャリア教育は、全教育活動の中で6年間を通して意図的・継続的に推進していくものである。小学校の成長は著しく、社会的自立・職業的自立に向けて基盤を形成する重要な時期である。ここでは、一人一人の発達に応じて、人、社会、自然、文化と関わる体験活動を、身近なところから徐々に広げ、ていねいに設定することが大切である。また、各種当番活動や勤労生産的な活動などを通して、自らの役割を果たそうとする意欲や態度を育むことが重要となってくる。すなわち、働くことに対する実感的な理解を深め、他者と関わる力を育成し、社会生活の中での責任や勤労などの概念を理解・定着させる校長の役割と指導性について究明する。